

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 伊丹健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	コロナ禍による生活習慣の変化の影響を受けてか、R3以降管内の肥満傾向児がそれ以前と比較し増加している。幼児期肥満は25%、学童前期肥満は40%が成人肥満に繋がると言われており、早い段階から対策を取ることが重要である。 調査結果を保育所や学校等と共有し、各部署の意見を聞きながら改善に向けて推し進めていくことが必要である。
今年度の推進方策	関係機関・団体との現状・課題の共有 対策に向けた指導者向け支援の実施
成果	保健・保育・教育分野の各関係者に調査結果を共有し、意見交換を行うことができた。管内の食育推進団体にも情報提供を行い、各団体が取り組む事業の中で「適正体重」に意識した事業を推し進めてもらうよう普及啓発することができた。
今後の方向性	今度も調査を続けるとともに、子どもの健康づくりを踏まえた食育推進がより一層充実したものとなるよう関係機関や団体と情報を共有しながら推進していく。保護者へのアプローチ方法については事例も少なく引き続き模索が必要である。

2 会議の開催状況

実施日時	令和5年5月9日(火) 10:00~12:00
参集者 (団体数 及び人数)	管内市町食育推進主管課 3機関3名
協議内容	1 情報交換 各市町の重点課題や取り組み状況について 2 情報共有・意見交換 子どもの身体状況の傾向について
今後の方策	保健・保育・教育分野と課題共有できるよう働きかけていく

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	幼児・学童期の食育・健康づくりの推進		
対象及び参加者数	①管内保育所・幼稚園・認定こども園・小学校 ②食育団体:2施設(学校給食センター)7団体(川西市歯科医師会・地域活動栄養士・伊丹給食研究会等) ③管内保育園・認定こども園等 1機関27施設 計31人 ④管内保育園・幼稚園・認定こども園・小学校		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	①令和5年6月	【調査】 幼児・学童期の身体状況調査並びに変化分析	伊丹健康福祉事務所
	②令和5年6月8日(木)猪名川町保健センター 8月9日(水)キラ川西プラザ 8月24日(木)猪名川立学校給食センター・伊丹市立学校給食第2センター 10月4日(水)伊丹健康福祉事務所	【情報共有・意見交換】 伊丹管内の子どもの身体状況の変化について	伊丹健康福祉事務所
	③令和5年12月12日(火)15:00~17:00	【研修会】 情報提供:子どもを取り巻く食生活の現状と課題 講義:子どもの食習慣と体型の関連 意見交換:園でのアプローチについて	甲南女子大学伊丹健康福祉事務所
	④令和6年2月	【普及啓発】 指導者向けチラシの作成・配布	伊丹健康福祉事務所
成果	<p>【成果】 保健・保育・教育分野の各関係者に調査結果を共有し、意見交換を行うことができた。また、管内の食育推進団体にも情報提供を行い、各団体が取り組む事業の中で「適正体重」に意識した事業を推し進めてもらうよう普及啓発することができた。</p> <p>【評価指標と目標値及び達成状況】 ・教育分野との連携(情報共有・意見交換)目標:3機関 →実績:2機関 ・食育推進団体への情報提供 実績:7団体 ・肥満・痩せ対策に関心を持つ食育推進機関・団体 実績:1機関2団体</p>		
今後の課題	どの分野でも「保護者からの要望がない限りは手出しができない」と動きにくさを感じていた。それ故、対策については優先度が低い機関・団体もあることが分かり、保護者が自分の子どもの体格を正確に認識できるような機会(仕掛け)が必要である。		

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

幼児・学童期の食育・健康づくりの推進

～令和5年度健やか食育プロジェクト～

伊丹健康福祉事務所

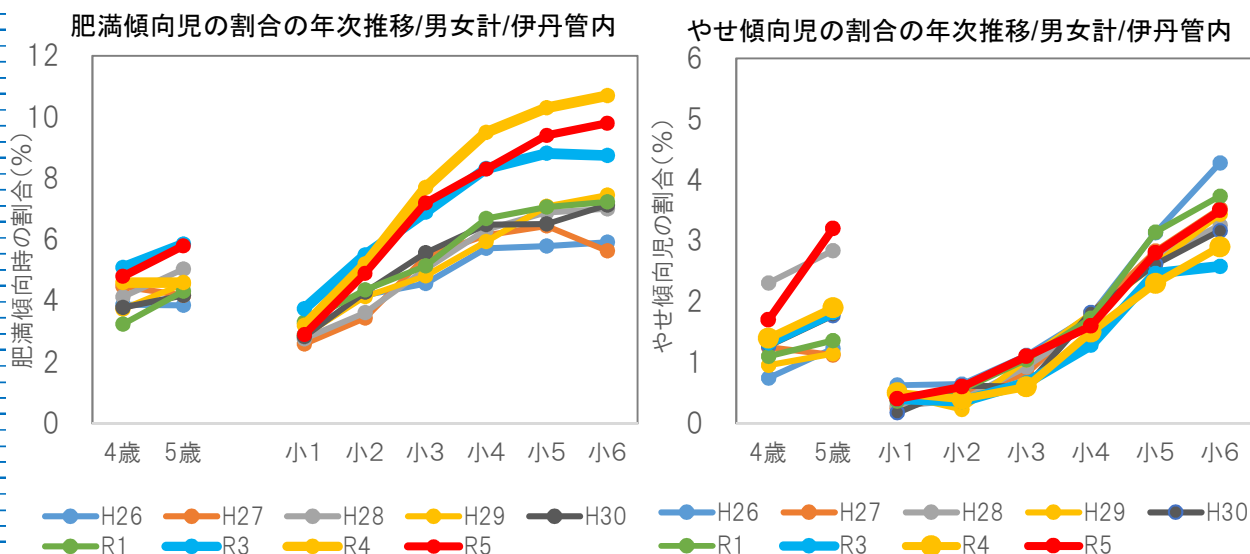
背景

- R3以降管内肥満傾向児がそれ以前と比較し増加傾向
- 幼児期肥満は25%、学童前期肥満は40%が成人肥満に繋がると言われているため、早い段階から対策を取ることが重要

今年度の方針

- 関係機関・団体との現状・課題の共有
- 対策に向けた指導者向け支援の実施

実践活動：幼児・学童期の身体状況調査



R1以前とR3以降を比較すると肥満傾向児は増加傾向にある
痩身傾向児は学年が上がるにつれて割合は増加している

【肥満傾向児】 幼児：肥満度+15%以上の児 小学生：肥満度+20%以上の児
【やせ傾向児】 幼児：肥満度-15%以下の児 小学生：肥満度-15%以下の児

実践活動：食育関係者と情報共有・意見交換

ねらい

関係者が各々の活動からアプローチいただけるように

猪名川町食育推進会議の機会の場合、地域活動栄養士協議会、学校栄養教諭など2施設7団体に、伊丹管内の子どもの身体状況の現状について情報提供を行い、意見をいただきました。

団体の中には自分たちが実施する事業に組み込んでいこうとする姿も見られました。

実践活動：幼児期向け支援者研修会

ねらい

給食施設でより一層給食を通じた食育が展開できるように

児童福祉施設等を対象に栄養・食生活支援スキルアップ研修会を開催しました。甲南女子大学 医療栄養学部 医療栄養学科の郡 俊之先生をお招きし、子どもの食習慣と体型の関連に関する研究結果や問題解決のヒントを学びました。その後、食育の実施や肥満傾向の子どもの支援方法に焦点を当て、参加者でグループワークを行いました。



ノウハウはあるにも関わらず「保護者からの要望がない限り手出しができない」と多くの施設が動きにくさを感じていました。しかし、そのような状況下でも「保護者がアプリで成長曲線がみられるようにしている」「おやつに煮干し、かりんとう、昆布など噛み応えのあるものを提供している」など、工夫を凝らして支援している施設もありました。



情報提供

本年度の調査結果とともに
研修会のハイライトを
対象施設に配布